

社会学部報

◇学術講演会および研究会

- 1999年11月5日(金)(研究会特別例会)
講師 Margrit Eichler 先生
トロント大学 教授
「Gender Bias in Sociological Research」
- 1999年11月10日(水)(研究会例会)
講師 打樋 啓史 氏
社会学部専任講師
「古代教会における聖餐の研究」
- 1999年11月24日(水)(研究会例会)
講師 川島 恵美 氏
社会学部専任講師
「体験学習による援助的コミュニケーション
技法訓練プログラムの開発」
- 1999年12月1日(水)(研究会例会)
講師 池埜 聡 氏
社会学部専任講師
「心理臨床と援助者が受ける心的外傷」
- 2000年1月26日(水)(研究会例会)
講師 劉 振英 先生
中国人民大学 社会系副教授
関西学院大学 社会学部客員研究員
「中国の家族」

◇社会学部教職員人権問題研修会

- 1999年12月1日(水)
講師 藤井 美和 氏
1983年愛媛大学 法学部 法学科卒業後、フジサンケイグループ入社。
シティリビング副編集長として勤務中、急性多発性根神経炎を患い入院、1990年関西学院大学社会学部に学士編入、修士課程修了後、アメリカ ワシントン大学(セント・ルイス)に留学。
1999年5月に Ph. D. in Social Work 取得。
「人間の尊厳：病む人のクオリティーオブライフ」

◇海外出張

- 浅野 仁 教授

1999年11月21日から11月27日まで
Shanghai International Seminar on Caring for the Elderly に参加・報告するため、中国へ。

- 荻野 昌弘 助教授
1999年11月26日から12月11日まで
フランス社会科学高等研究院、新リスボン大学、ヌシャテル博物館において講演、調査・資料収集を行うため、フランス、ポルトガル、スイスへ。
- 荻野 昌弘 助教授
2000年2月20日から2月27日まで
文部省科学研究助成による「制度としての文化財・博物館」調査のため、イタリアへ。
- 森川 甫 教授
2000年2月24日から3月4日まで
「フランス詩編歌」およびパスカルの『プロヴァンシアルの手紙』に関する共同研究のため、フランス、スイスへ。
- ルース M. グルーベル 教授
2000年3月8日から3月19日まで
Association for Asian Studies 及び International Studies Association に参加のため、アメリカ合衆国へ。
- 真鍋 一史 教授
2000年3月13日から7月31日まで
価値観の変化に関する国際シンポジウム参加及び国際比較研究、日本社会論に関する集中講義、世界化に伴う価値観の変容に関する共同研究のため、ドイツ、カナダへ。
- 福地 直子 専任講師
2000年3月13日から3月19日まで
言語教育センター英語常勤講師採用人事委員会委員として面接を行うため、カナダへ。
- アラン ブレイディ 助教授
2000年3月25日から4月3日まで
IATEFL 第34回国際年学会参加のため、アイルランドへ。
- 山本 剛郎 教授
2000年3月26日から4月2日まで
都市周辺部長屋地区の更新と保存に関する国際比較研究のための資料収集のため、イギリス、ベルギーへ。

- 真鍋 一史 教授
2000年9月30日から10月9日まで
社会科学の方法論に関する国際会議で研究発表を行うためドイツへ。

◇新刊書紹介

- 浅野 仁 教授 (編集)
高齢者ケア実務研究会編著
『高齢者ケア実践事例集』第一法規 1999. 6
- 浅野 仁 教授 (監修)
アードマン・B・パルモア著
『高齢期をいきる高齢期をたのしむ —セカンドライフのすすめ』ミネルヴァ書房 1999. 10
- 津金澤 聰廣 教授 (共編著)
『震災の社会学—阪神・淡路大震災と民衆意識』世界思想社 1999. 11
- 津金澤 聰廣 教授 (分担執筆)
「流言飛語とメディア」
黒田展之・津金澤聰廣編著
『震災の社会学—阪神・淡路大震災と民衆意識』世界思想社 1999. 11
- 山本 剛郎 教授 (分担執筆)
「大震災とコープこうべ」
黒田展之・津金澤聰廣編著
『震災の社会学—阪神・淡路大震災と民衆意識』世界思想社 1999. 11
- 高田 真治 教授 (分担執筆)
「大震災と住民生活—「地域福祉」の再検討—」
黒田展之・津金澤聰廣編著
『震災の社会学—阪神・淡路大震災と民衆意識』世界思想社 1999. 11
- 藤原 武弘 教授 (分担執筆)
「芦屋市民の災害意識—その社会心理学的研究—」
黒田展之・津金澤聰廣編著
『震災の社会学—阪神・淡路大震災と民衆意識』世界思想社 1999. 11
- 立木 茂雄 教授 (分担執筆)
「ネットワーク組織による危機のマネジメント」
黒田展之・津金澤聰廣編著
『震災の社会学—阪神・淡路大震災と民衆意

- 識』世界思想社 1999. 11
- 三浦 耕吉郎 助教授 (分担執筆)
「自警団とボランティア—震災の比較社会史のために—」
黒田展之・津金澤聰廣編著
『震災の社会学—阪神・淡路大震災と民衆意識』世界思想社 1999. 11
- 対馬 路人 教授 (分担執筆)
「宗教と科学のはざま—現代日本の「心霊研究」運動」宗教社会学の会編
『神々宿りし都市—世俗都市の宗教社会学』創元社 1999. 11
- 大谷 信介 教授 (共編著)
『社会調査へのアプローチ—論理と方法』ミネルヴァ書房 1999. 11
- 津金澤 聰廣 教授 (共編著)
『テレビ放送への提言』ミネルヴァ書房 1999. 11
- 難波 功士 専任講師 (分担執筆)
「テレビCMをめぐる現状と課題」
津金澤聰廣・田宮武編
『テレビ放送への提言』ミネルヴァ書房 1999. 11
- 津金澤 聰廣 教授 (分担執筆)
「百貨店のイベントと都市文化」
山本武利・西沢保編
『百貨店の文化史—日本の消費革命』世界思想社 1999. 12
- 宮原 浩二郎 教授 (分担執筆)
「震度7の社会空間—芦屋市の場合—」
安保則夫編
『震災・神戸の社会学—被災地へのまなざし』八千代出版1999. 12
- 宮原 浩二郎 教授 (分担執筆)
「リー・クアンユー—政治指導者の資質—」
杉谷滋編著
『シンガポール—清廉な政府・巧妙な政策』お茶の水書房 1999. 12
- 荻野 昌弘 助教授 (分担執筆)
「被災者の軌跡—人々は阪神大震災の後どのように移動したか—」
「震災の語られぬ部分をみる—社会調査を考える—」

- 安保則夫著
『震災・神戸の社会学—被災地へのまなざし』
八千代出版 1999.12
- 荻野 昌弘 助教授 (分担執筆)
「ラッフルズの思想—空間を作る論理—」
杉谷滋編著
『シンガポール—清廉な政府・巧妙な政策』お
茶の水書房 1999.12
- 奥野 卓司 教授 (単著)
『第三の社会—ビジネス・家族・社会が変わ
る—』岩波書店 2000.1
- 石川 明 教授 (分担執筆)
「市民社会とメディア企業—「編集権」をめ
ぐって」
原 寿雄編
『市民社会とメディア』リベルタ出版
2000.2

学会消息

◇日本社会心理学会

- 日本社会心理学会が1999年10月30日(土)と
31日(日)の両日、慶應義塾大学において開
催された。本学からは真鍋一史教授が「社会
問題・臨床」のセッションの座長をつとめ
るとともに、「ナショナル・アイデンティティ
の日本的構造の分析」というテーマで研究発
表を行った。

◇日本広告学会

- 日本広告学会が1999年10月23日(土)、24日
(日)の両日、福岡の西南学院大学において
開催された。本学からは真鍋一史教授が出席
し、日経広告研究所の栗原信征研究部長とと
もに、「海外マスメディア広告における日本
語使用の実態と人びとの日本・日本人・日本
語をめぐる意識—マーケティング論と文化論
の視座から—」と題する研究発表を行った。

◇日本世論調査協会研究大会

- 日本世論調査協会研究大会が1999年11月22日
(月)、中央大学駿河台記念館で開催された。

本学からは真鍋一史教授とそのゼミナールの
学生全員が参加した。真鍋教授は「世論研究
の系譜・現状・課題」と題する記念講演を
行った。

◇関西社会学会

- 1999年6月5日・6日に関西大学で開催され
た第50回関西社会学会大会において、高坂健
次教授は「知の考現学としての可能性」と題
するミニ・シンポジウムのコーディネーター
を務めた。

◇日本学術会議(50周年記念シンポジウム)

- 1999年9月3日に関西学院大学図書館ホール
で開催された日本学術会議50周年記念シンポ
ジウム(「国際学術会議への対応—社会学研
究連絡委員会の場合—」)において、高坂健
次教授は「アジア太平洋社会学会の場合」と
題して報告を行った。

◇社会・経済システム学会

- 1999年11月13日・14日に法政大学 多摩キャン
パスにおいて開催された。第18回大会にお
いて、高坂健次教授は「社会経済システム分
析のフロンティア」と題する大会シンポジウ
ムにおいて座長を務めた。なお、12月18日に
甲南大学において開催された関西支部例会に
おいても、高坂健次教授は「社会学における
システム論—old and new—」と題して報告
を行った。

◇日本出版学会

- 創立30周年記念1999年度関西地区秋季研究集
会が1999年11月27日(土)に関西学院大学に
おいて開催された。個人研究発表とシンポジ
ウム「出版研究30年を語る」が行われ、本学
部からは津金澤聰廣教授と芝田正夫教授が参
加し、会場校として集会運営にあたった。

執筆者紹介 (掲載順)

牧 正 英	関西学院大学社会学部教授	真 鍋 一 史	関西学院大学社会学部教授
西 山 美 瑳 子	関西学院大学名誉教授	Ruth M. Grubel	関西学院大学社会学部教授
小 関 藤 一 郎	関西学院大学名誉教授	池 埜 聡	関西学院大学社会学部専任講師
倉 田 和 四 生	関西学院大学名誉教授	高 坂 健 次	関西学院大学社会学部教授
居 樹 伸 雄	関西学院大学社会学部教授	杉 山 貞 夫	関西学院大学名誉教授 ハワイ大学医学部老年病学科客員教授
奥 野 卓 司	関西学院大学社会学部教授	森 川 甫	関西学院大学社会学部教授
川 久 保 美 智 子	関西学院大学社会学部教授	難 波 功 士	関西学院大学社会学部専任講師

社会学部研究会会員

会 長	高 坂 健 次						
運 営 委 員	森 川 甫	春 名 純 人	石 川 明				
	奥 野 卓 司	大 谷 信 介	R.M. グルーベル				
会 計 監 査	中 山 慶 一 郎	紺 田 千 登 史					
書 記	速 水 幸 一						
名 譽 会 員	張 光 夫	遠 藤 惣 一	船 本 弘 毅				
	半 田 一 吉	J. A. ジョイス	小 関 藤 一 郎				
	倉 田 和 四 生	萬 成 博	宮 田 満 雄				
	村 川 満	中 野 秀 一 郎	西 尾 朗				
	西 山 美 瑳 子	岡 村 重 夫	領 家 穰				
	杉 原 方	杉 山 貞 夫	田 中 國 夫				
	(A. B. C 順)						
普 通 会 員	武 田 建	牧 正 英	佐々木 薫				
	森 川 甫	中 山 慶 一 郎	津 金 澤 聡 廣				
	春 名 純 人	紺 田 千 登 史	真 鍋 一 史				
	山 路 勝 彦	山 本 剛 郎	高 田 真 治				
	荒 川 義 子	安 藤 文 四 郎	浅 野 仁				
	高 坂 健 次	石 川 明	對 馬 路 人				
	芝 田 正 夫	芝 野 松 次 郎	藤 原 武 弘				
	宮 原 浩 二 郎	藤 戸 淑 子	立 木 茂 雄				
	田 中 耕 一	居 樹 伸 雄	八 木 克 正				
	奥 野 卓 司	久 保 田 稔	大 谷 信 介				
	川 久 保 美 智 子	R.M. グルーベル	室 田 保 夫				
	A. ブレイディ	荻 野 昌 弘	三 浦 耕 吉 郎				
	岡 田 弥 生	福 地 直 子	難 波 功 士				
	野 波 寛	川 島 恵 美	池 埜 聡				
	打 樋 啓 史						

関西学院大学社会学部研究会会則

第1章 総 則

第1条

本会は関西学院大学社会学部研究会と称する。

第2条

本会は本学部における社会学と関連諸科学の教育・研究の推進を計ることを目的とする。

第3条

本会は事務局を西宮市上ヶ原一番町1—155関西学院大学社会学部内におく。

第2章 事 業

第4条

本会は第2条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 研究会などの開催
2. 機関誌「関西学院大学社会学部紀要」などの刊行
3. 会員相互の研究・教育に関する連絡および協力
4. 本学部の教育・研究に対する協力
5. 国内外関係諸学会との協力
6. その他本会の目的を達成するために必要な事業

第3章 会 員

第5条

本会の会員は次のとおりとする。

1. 名誉会員 本会に功労のあったもので、本会の推薦するもの
2. 普通会員 本学社会学部専任の教授、助教授、講師および助手
3. 賛助会員 本会の趣旨に賛同するもの

第4章 運営組織

第6条

第2章記載の事業を行うため、本会には以下の委員、委員会等をおく。

1. 会長は当該年度の社会学部長とし、本会には以下の委員、委員会等をおく。
2. 運営委員（6名）：運営委員は普通会員の中から互選し、運営委員会を構成する。
3. 運営委員長（1名）と会計（1名）：運営委員長と会計は運営委員の中から互選する。
4. 運営委員会は第4条に記された事業の企画・運営にあたる。

なお、機関誌「社会学部紀要」の編集については運営委員会内に複数の委員をもって構成される編集委員会を置く。編集委員長は、運営委員長が兼ねることがある。

5. 会計監査（2名）：会計監査は普通会員の中から互選する。
6. 書記は社会学部事務長に委嘱する。

第 7 条

本研究会委員の任期は2年とする。重任を妨げない。

第 5 章 総 会

第 8 条

総会は定期総会と臨時総会とし、会長が主宰する。定期総会は毎年一回開催され、臨時総会は会長が必要と認めたとき、あるいは普通会員の1/2以上の要求があった場合に開催される。議決は出席者の過半数をもって行う。

第 9 条

総会の承認を必要とするものは第6条第1項のほか、次の事項とする。

1. 事業計画および収支予算
2. 事業報告および収支決算
3. その他運営委員会において必要と認めた事項

第 6 章 会 計

第 10 条

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第 11 条

本会の経費は次の収入をもってあてる。

1. 会 費
普通会員年額 31,200円
賛助会員年額 10,000円
2. 寄付および補助助成による金品
3. その他の収入

第 12 条

本会員および本学社会学部大学院学生・大学院研究員並びに学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の購読費は年間2,600円とする。

付 則

第 1 条

本会の事業運営に必要な諸規定は、運営委員会の議を経て別に定めることができる。

第 2 条

本会の会則変更および本会の解散、ならびに、これに伴う財産の処分等については、総会において、出席者の2/3以上の同意を得ることを要する。

第 3 条

本会則は1992年4月1日より施行する。

「社会学部紀要」編集内規

1992年4月1日施行

1996年10月23日改正

1. 「社会学部紀要」（以下、本紀要という）は原則として、当該年度中に2回発行する。6月末を締切日とする号は10月上旬の配布を、11月末日を締切日とする号は3月25日の配布を目標とする。
2. 本紀要の企画、編集、発行は社会学部研究会「社会学部紀要」編集委員会がおこなう。
3. 本紀要に掲載される原稿の種類は以下に掲げるものとする。
 - ①原著
 - ②研究ノート
 - ③学部および社会学部研究会主催、共催の講演会の講演原稿
 - ④書評、内外の学術研究、学術集会の動向の紹介
 - ⑤社会学部最優秀卒業論文賞（安田賞）受賞論文
 - ⑥その他編集委員会が必要と認めた記事
4. 本紀要への投稿有資格者は社会学部研究会名誉会員、ならびに普通会員とする。なお、共同執筆者は名誉会員あるいは普通会員の推薦を受けた者、名誉会員あるいは普通会員と共同研究をおこなった者とする。

上記以外の投稿者に関しては普通会員による推薦と編集委員会の審査を経て2名を限度として掲載することができる。

大学院学生ならびに研究員単独の論文原稿の掲載に関しては、普通会員による推薦と編集委員会の審査を経て決定する。
5. 原稿の執筆に際しては、以下の様式に従うものとする。
 - ①原著については、原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙100枚以内、研究ノートについては原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙60枚以内とする。ワードプロセッサによる原稿については字数においてそれらに相当する分量とする。
 - ②手書き原稿に用いる原稿用紙は研究会指定の200字詰め横書き原稿用紙とする。
 - ③図表、写真等は題字、説明つきですべて本文とは別紙とし、本文中に挿入する個所を本文欄外に指示すること。

図表・写真等の費用は50,000円を限度として社会学部研究会が負担するが、それを超える分は執筆者の負担とする。
 - ④原稿には和文および英文の表題、さらに欧文の要約をつける。また執筆者名、所属機関名についても同様とする。
 - ⑤原稿に3語のキーワードをつける。
6. 本紀要に発表する原著論文、研究ノートは他に未発表のもの、または学会大会等での口頭発表の主題をその学会等の了解のもとに原稿にまとめたものに限られる。
7. 外国語による原稿については編集委員会において審議の上、許可することがある。分量は日本語原稿の場合に準ずるものとする。
8. 編集委員会が依頼した外国語原稿を翻訳して掲載する場合には、その翻訳者に対し翻訳料を支払うものとする。その金額については社会学部研究会運営委員会で審議の上決定する。
9. 本紀要に掲載された論文等は無断で他の雑誌等に転載することを禁ずる。

また、執筆者がすでに外国語または日本語で発表した論文等を日本語または外国語に翻訳して掲載を希望する場合には、編集委員会において審議のうえ、それを許可することがある。ただし、この場合、版權処理に関する責任は全て執筆者が負うものとする。その場合の翻訳料は支払わない。
10. 本紀要の執筆者に対しては本誌1部と抜刷100部を無料で配布する。ただし、それ以上の抜刷を希望する場合、その実費は本人の負担とする。
11. 発行された紀要は名誉会員、普通会員、大学院学生、大学院研究員および学生に配布する。その年度の非常勤講師にも配布する。また、本紀要は上記以外の者に頒布することができる。なお、頒布料は原則として学生の購読料と同額とする。
12. この編集内規は研究会運営委員会の議を経て変更することがある。ただし、その変更はその年度の社会学部研究会総会で報告されなければならない。

<編集後記>

本号、第86号を「牧正英教授記念号」として発刊致します。牧正英先生は現在の社会学部教員のなかでは、学部開設時に就任された最後の方です。総合教育研究室室長、社会学部長の要職を歴任されましたが、とくに社会学部長として学术交流のため大きな努力を払われました。従来 of 北米、中国の諸大学との交流だけにとどまらず、ドイツのボン大学文学部日本文化研究所やフランス国立社会科学高等研究院現代日本研究所と学術協定を結び、交流を深めてこられました。外国人日本研究者にとって大きな荣誉である「山片蟠桃賞」に、本学名誉博士オギュスタン・ベルク氏を熱意をもって推薦され、実現されました。牧学部長からの依頼でベルクさんに受ける意志があるかどうかを確かめた時、「もちろん喜んで受けますよ。」というベルクさんのはずんだ声が印象的でした。

海外の研究者を招いて、講演会、研究会を開催することにも深い理解をもって推進されました。社会学、社会福祉学だけでなく、関連科学、人文科学などにも理解をもって下さり、そのお蔭で、カルヴァンやパスカルの第一流学者を招き、神学部や文学部との共催で講演会を持つことができました。先生は深く、広い学术交流に尽力されるとともに、また、開設当時から of 在職者として創設の理念を次代に伝える配慮もされました。

先生は関西学院大学御退職後新設の大学に赴任されますが、御健康に留意されてますます御活躍下さいますよう、お祈り申し上げます。この記念号のため先生御関連の領域の方々を初め、多くの方が寄稿して下さりまして、大変有難うございました。編集実務を細心の配慮をもって遂行して下さいる湯原陽里香主事にも厚く感謝致します。

(森川 甫)

2000年3月10日 印刷

2000年3月21日 発行

編集発行人 高坂健次

発行所 関西学院大学社会学部研究会

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町

関西学院大学社会学部内

電話(0798)(54)6202

印刷所 尼崎印刷株式会社

〒661-0957 尼崎市下坂部3丁目9番20号

電話(06)6494-1122(代)

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY
SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

No. 86

March 2000

In Dedication to Professor MAKI Masahide

The Study Association of Sociology Department

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

Nishinomiya, Japan
